

農業分野における生物多様性の取組

身近なところにヒントがある

カゴメ株式会社

(主な取組地域：長野県富士見町)

カゴメ野菜生活ファーム富士見の畑で
“生物多様性保全”に配慮した農業を開始



- カゴメ株式会社では、「カゴメ野菜生活ファーム富士見」に隣接する 1.2 ヘクタールの畑を、「生きものと共生する農場」として、持続可能な農業の実現を目指す取組を始めている。
- 畑まわりに設置された「竹筒マンション」は、害虫である幼虫を駆除するドロバチの巣となる。また「石づみハウス」は、害虫の天敵となるトカゲやてんとうむしの住処になるよう作られており、農業に役立つ生きものを畑へと呼びこみ、生きものの力を活かして農業の展開を目指している。
- 同社では、野菜生活ファーム富士見の来場者むけに「畑の生きものクイズラリー」ができる看板を設置し、生物多様性や生きもの大切さを楽しく学ぶことのできる場ともしている。

キリンホールディングス、メルシャン

(主な取組地域：長野県上田市)

ぶどう畑として活用することで
生物多様性が回復



- メルシャンでは長野県上田市に梔子ヴィンヤードを2003年に開場した。
- ワイン用のブドウは垣根栽培であり、適度に下草を生やすよう維持管理する必要がある。この環境が従前の耕作放棄地の状態に比べ、生物多様性の向上に寄与しており、希少種を含む昆虫168種、植物258種が確認されている。

株式会社オプティムアグリ・みちのく

(主な取組地域：青森県)

ドローン(小型無人機)を使った
ピンポイント農薬散布防除サービス



- システム開発のオプティムとみちのく銀行は農業地域商社オプティムアグリ・みちのく(青森市)を設立。
- オプティムが開発した特許技術である「ピンポイント農薬散布・施肥テクノロジー」を同社が活用し、AIによって病害虫が検知された箇所のみにドローンを用いて、ピンポイントで農薬散布し、環境への負荷を大幅に低減している。